

研究機関名：下関市立市民病院

研究課題名：待機的開胸心臓手術患者の Short Physical Performance Battery の改善率に及ぼす関連因子の検討

研究期間： 承認日 ～ 西暦 2026 年 3 月 31 日

対象材料：

病理材料（対象臓器名： ）

生検材料（対象臓器名 ）

血液材料

遊離細胞

■その他（診療録および診療・治療上の検査・測定、問診で各種データを収集する。）

上記材料の採取期間： 承認日 ～ 2024 年 3 月 31 日

意義：フレイルを呈する開胸心臓手術患者は予後が不良で、術後に身体機能低下を認める例が存在することが先行研究で示されており、機能低下を最小限にするようリハビリテーションを進めていく必要がある。SPPB は身体的フレイルの評価で、特殊な測定機器を使用せず臨床上簡便に実施できる評価法であり、信頼性、妥当性、実現可能性の面から推奨されている。これまで開胸心臓手術前の SPPB と術後歩行能力再獲得やリハビリテーション遅延との関連性を検討した研究や手術前後の SPPB の変化を年齢別に検討した研究は存在するが、SPPB の改善率に及ぼす関連因子を検討した研究は散見されない。開胸心臓手術患者における SPPB の改善率に関連する因子が明らかになれば、術後経過の予測や術後リハビリテーションプログラムの選択に役立てることが出来る可能性がある。

目的：

- (1) 開胸心臓手術患者における SPPB の改善率（術前 SPPB－退院時 SPPB）を良好群（変化なしもしくは向上）、不良群（1 点以上の低下）に分け群間比較を行い、特徴を明らかにする。
- (2) SPPB の各項目ごとに改善率に特徴があるか明らかにする。
- (3) SPPB の改善率に及ぼす関連因子を明らかにする。

方法：通常診療の範囲内で得られる基本情報や医学的情報、理学療法評価を診療録より収集する。

個人情報の取り扱い：患者様の個人情報は、個人を特定できる情報とは切り離した上で使用する。また、研究成果を理学療法関連学会で発表するが、患者様個人を特定できる個人情報は含まない。

問い合わせ・苦情等の窓口：

〒750-8520

山口県下関市向洋町一丁目13番1号

下関市立市民病院 リハビリテーション部 月城 一志

TEL 083-231-4111 FAX 083-224-3838